第 68 回　企業活性化研究分科会・議事録

＜第六八回 2014 年 6 月 28 日（土）時間：13：30～17：00 於：専修大学（神田校舎）＞

参加者：井端、大野、木村、夏目、浜田、宮川、山本、渡邉（8 名）

1.　*テーマ：明治機械株式会社の粉飾と再生*

・報告者：井端和男　　・配付資料：12 枚

・報告内容の要旨

本報告は、明治機械株式会社（以下、明治機械とする）の粉飾と企業再生について検討した。はじめに、明治機械の粉飾は、不適切な押込・架空売上と売上債権にかかる不適当な貸倒引当金、不適切な原価流用による損益計算書および貸借対照表上の数値を分析した。また、粉飾訂正前の財務数値を用いて、売上高と営業資産の回帰直線を求めた。回帰直線の結果、売上高の最大値である平成 17 年度の異常値の影響を受けて傾きが小さくなっており、実際にはより大きな傾きになるのではないかという議論が生じた。

次に、明治機械の連結業績と平成 16 年に子会社としたラップマスターエスエフティ（以下、ラップ社とする）の単体の業績推移を分析した。分析結果から、明治機械の長期赤字の一因がラップ社にあると指摘した。そこで、ラップ社を外した明治機械グループに絞り、再び業績を分析した。その結果、明治機械グループは、平成 14 年 3 月期には黒字体質に回復していると推測した。平成 21 年 3 月期頃には再度赤字基調に陥るものの、平成 26 年 3 月期において自己資本比率が安全水準を超えていることから、5 年の法則、30/10 の法則から鑑みても再生の可能性があると考察した。再生のためには子会社整理が必要である一方、コアビジネスを担っていた会社の売却により収益力の低下し、赤字体質になった可能性もある。これらの検討を踏まえ、赤字にもかかわらず増資を行っている点、コアビジネスの売却、ラップ社の買収などの問題点を解明する必要があるとした。

2.　*テーマ：回帰方程式と時系列相関－明治機械の場合－*

・報告者：山本洋信、大野喜一　　・配付資料：5 枚

・報告内容の要旨

本報告は、明治機械の財務数値を用いて、相関と回帰方程式を求めた。まず、明治機械の投資額と粗利益の財務数値をもとに、エクセルを利用した回帰方程式の組み方を確認した。

次に、明治機械の粉飾訂正前の売上高と資産の相関に関して、平成 25 年度の財務数値の扱い方について検討した。平成 25 年度の財務数値は、既に粉飾を解消した状態であり、異常値として他年度とは切り離して考える必要があると指摘した。

これらのことを踏まえ、時系列相関をとる際には異常値の取り方に注意することが重要であると結論づけた。

3.　*今後の予定について*

・2014 年 7 月 12 日（土）　分析企業－株式会社リンコーコーポレーション－　夏目

・2014 年 8 月 2 日（土）　分析企業－第一中央汽船株式会社－　大野先生

（文責：夏目拓哉）